

- ◇事故に不思議の事故なし（「失敗学」畑村洋太郎から）
事故につながるヒューマンファクターの分析（⇔の後は川田が考える対策）
- ① 無知 = 予防策があるのに勉強していなかった
⇔ 必要な知識は身に付けておきたい。作業マニュアル、講習会の参加
 - ② 不注意 = 体調不良、あせりなどで注意が散漫になる
⇔ 作業前のミーティングでチェック。その日の危険を予測し注意喚起
 - ③ 手順を守らず = 1人のルール無視で全体の事故に
⇔ なぜその手順が必要か全体で理解。マニュアルを周知、初心者の見守り
 - ④ 判断の誤り = 状況の取り違え、判断基準や手順の違い
⇔ 複数の目でチェックし議論。「これでもいいか」で動かない
 - ⑤ 調査・検討不足 = うまくいかないときの対応も検討すべきなのに…
⇔ 落ち着いて観察・調査し、考えられる限りの結果を予測
 - ⑥ 条件・状況の変化 = 気象変化、若いときみたいに動けない…なんてことも
⇔ 必要な情報は共有し対応。「想定外」にしない
 - ⑦ 企画・計画に問題 = 調査や判断の誤り、検討の捻じ曲げ
⇔ 気づいた時点で計画を止め、やり直す
 - ⑧ 価値観の食い違い = 目的、経験、体力、知識…それぞれの価値観が
⇔ しっかり議論し、納得できる方法、計画を探す。結論を急がない
 - ⑨ 組織運営に問題 = いくつもの問題を組織幹部が放置
⇔ ちょっと根深い。場合によっては組織解体も
 - ⑩ 未知の現象 = 世の中の誰も想定していないことは…う～ん

◇意識している3つの落とし穴

①見たくないものは見えない

=いないはずの場所に人がいた、緩い斜面と思ったら先は急傾斜…とか。

* 最終判断の前にもう一度、これでいいか見る。できるだけ複数の目でチェックし、見落としを防ぐ

* 「聞きたくないことは聞こえない」は別の話で、問題外

②なれは怖い

=手順を飛ばす、条件の取違えに目をつむる…とか。ベテラン手前の問題？

* 「これでもいいか」は許さない気持ちを常に。もちろん自分にも。目にしたら声を掛け、話し合う。

③マニュアルのわな

=ポイントを分かりやすくするため「なぜ」が省略される。理屈が分かっているないと、手順を飛ばしたり、自己流に走ることも

* 講習などは「なぜこうする」をできるだけ説明。理解できると応用も

◇いつも現場で呼び掛けていること2つ

☆細かいところまで言葉でコミュニケーションを取る。意見が違うときは納得できるまで話し合う。アイコンタクトは駄目

☆とにかく急がない。ゆっくり観察・調査し、ゆっくり計画を立て、ゆっくり話し合っ、ゆっくり作業する。山で走らない

◇事故とヒヤリ・ハット

大きな事故1件の陰に29件の小さな事故、300件のヒヤリ・ハット
「ヒヤリ・ハット」「小さな事故」で止めたい

活動の後に必ず「ヒヤリ・ハット」を報告してもらい記録・分析。教訓を共有
事故は必ず経緯と原因を調査し、再発防止策をまとめ、共有する
とにかく「みんなで」考えることが大事

(了)